

日韓青少年交流キャンプ-Reboot 2023

～未来を繋ぐわたしたち～

参加動機

一つ目は、このプログラムの「寝食を共にしながら共同作業に取り組む」という部分にとっても惹かれたからです。同年代の韓国人学生と交流する機会はなかなかないので、それだけでも心躍るものですが、そうした密度の濃い交流をすることで、ただ共同作業をするだけでは生じえない、言語の壁を超えた深い絆や友情も生まれるはずなので、もしもこのプログラムに参加させて頂くことになったら、終了後もその貴重な友情を大切にしたいと考えました。二つ目は、プログラムの予定表を拝見し、その充実した内容に衝撃を受けたからです。私が特に興味深いと思ったのが、三日目の「模擬ピッチ」です。一般的に発表に用いられるプレゼンテーションではなく、ピッチという形式が取られていることに魅力を感じました。なぜなら、ピッチをする上で重要なのは、「いかに短時間でインパクトを与え、聞き手に興味を持ってもらえるか」だからです。つまり、これにより本題を適切な表現で簡潔に伝える能力を身に付けることが出来ます。これは、今後私たちが社会に出たとき求められるスキルなので、必ずこの経験が役立つと思います。三つ目は、単純に、日韓の高校生なら「誰でも」参加可能だからです。これは、当たり前のように思われがちですが、意外と何らかの制限がある場合は少なくありません。まだどういったメンバーが集まるのか分かりませんが、健常者だけでなくハンディキャップをお持ちの方でも気兼ねなく参加出来るということはとても素敵なことですし、そういった面でも相互理解を深めることが出来ると思いました。

概要

当キャンプの目的は、日韓の経済交流活発化のため将来の両国経済界を担うであろう高校生を対象に、寝食を共にしながら共同作業に取り組むことを通じて、密度の高い交流を体験して相互理解を深めることです。当キャンプは一般社団法人日韓経済協会の事業で、日韓青少年交流キャンプだけでなく6日間かけて行われる「日韓学生未来会議」という行事も年1回、日韓交互に各地で開催されています。未来会議は当協会が主催する日韓青少年交流キャンプのOB/OGにより2006年、日韓それぞれ結成されたJKSFF(Japan Korea Students Future Forum)/KJSFF(Korea Japan Students Future Forum)の主催で、2007年2月に「第1回日韓学生未来会議」が開催されて以来継続的に行われています。未来会議では、日韓両国に関わる歴史、時事、文化、生活などをテーマに、日韓両国の学生が事前研究・発表・意見交換を行います。また、実際に空港で集まる前に、事前説明会で日本人メンバーとの顔合わせがあったほか、「メタバースオンライントレーニング」というアバターを使ったツールで、日韓各15名、計30名が10人ずつの1,2,3グループに分かれゲーム感覚でミッションを遂行し、自己紹介や自国についての紹介なども行いました。当キャンプは、新型コロナウイルスの影響で4年ぶりに開催されたことから、本来ならば一週間かけて行われるプログラムを3泊4日というコンパクトな日程に収めたため、内容も相まって非常に濃い3日間でした。参加費は20,000円ですが、その他3泊4日間の宿泊・移動・食事・交流プログラム費用は、全て主催側に負担して頂きました。

プログラム内容

1 日目

日本人メンバーが羽田空港で集合しました。



1. チームビルディング

ホテルで夕食を済ませた後、韓国メンバーの皆さんが私たちを歓迎してくださいました(写真1)。



(写真1)



(チーム1)



(チーム2)



(チーム3)

このあと、実際にチームビルディングが始まりました。改めて自己紹介をしてお互いの名前を覚え、チームに1人ずつ代表者を決め、どのチームが1番早く全員の名前を暗唱できるかなどを競ったり、チームでレゴを組み立ててどのチームが1番高く積むことができるか(写真2,3)など、簡単なものですが日韓メンバーの連携が求められる作業のため、仲を深めることが出来ました。初対面でも、メタバースで二度交流しているので「あ、あのアバターはこの人だったのか」と分かり、あまり緊張することなく会話をする事ができました。スタッフの方や韓国メンバーの中にも日本語が上手な人が多く、会話をする

上で助けられた部分が多かったように感じます。また、当キャンプでは日本語や韓国語だけでなく、英語も使ってコミュニケーションを取ります。このような多言語を用いた交流の場はあまりないと思うので、そういった意味でも非常に貴重な経験になりました。チームビルディングは、司会の方が日本語と韓国語で進行してくださったので、韓国語が分からないから焦るといこともなく安心して楽しむことができました。



(写真 2)



(写真 3)

2 日目

2. 企業訪問

私たちは、TK&G サンサン・プラネット ソーシャルベンチャー企業を訪問しました。基本的にチーム別行動のため、それぞれの班が分かれて会社の方のお話を伺いました(写真 4,5)。私のチームは、PM2.5 の計測やその問題点などについてのお話を聴きました。質問タイムでは、ひとりひとり自分が気になったこと、疑問思ったことを質問しました。私も PM2.5 といえば中国のイメージが強かったので、韓国でも問題視されていることを初めて知り、韓国での PM2.5 の認知度などについて質問しました。

また、会社の中を案内して頂き、リアルな仕事場の様子を見学しました(写真 6,7,8)。長丁場の仕事で疲れてもすぐ休めるように社員用の睡眠室があり、仕事の合間にお腹が空いたらいつでも食事が摂れるようにキッチンも設けられていました。この他、広々としたリラックスできるスペースもありました。



(写真 4)



(写真 5)



(写真 6)



(写真 7)



(写真 8)



(集合写真)

また、チームごとに伺ったお話について写真を撮るミッションがあったので、私のチームは、PM2.5 が蔓延する中、マスクをしている人は無影響だけれどマスクをしていない人はその影響を受け人体に害を及ぼしている、というテーマで写真を撮りました(写真 9)。その後チーム別で昼食を食べました(写真 10)。



(写真 9)



(写真 10)

3. 香水作り

私たちのチームは、香水作りの体験をしました。店員さんとどんな香水にしたいかなど話しながら完成させていくため、韓国語でコミュニケーションを取るのが難しかったです。しかし、私より韓国語が上手な日本人メンバーや日本語が話せる韓国メンバーに助けをもらい、満足のいく香水を作ることが出来ました(写真 11,12)。



(写真 11)



(写真 12)

4. ポップアップストア体験

日韓メンバーで分かれて、日本人メンバーでポップアップストアで謎解きゲームをしました(写真 13,14,15)。それまでずっと韓国語に触れ続けていたので、徐々に日本語だけで会話をし、緊張が解れました。閃いた人がまわりにアイデアをシェアし、ひとつひとつミッションを通過していく、という連携がチームワークを高め、そこで更に日本人同士の絆が深まったように感じました。全てのミッションをクリアした時は、それまでになかった達成感を覚えました。



(写真 13)



(写真 14)



(写真 15)

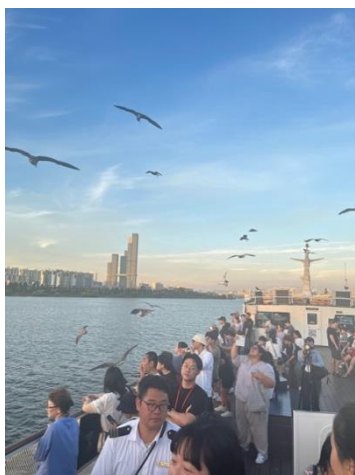
夕食は、全員で集まって食べました(写真 15)。韓国の伝統的な料理が多く、料理からも韓国の文化を感じることが出来ました。食べ方のわからないものや、初めて見る料理は近くにいる韓国人メンバーにすぐ聞くことが出来るので、有難かったです。



(写真 15)

5. 漢江遊覧船

韓国で1番大きい川、漢江のクルーズに乗りました。カモメがたくさんいて、餌やり体験をしました。ここでは友達と写真を撮るなど、純粋に楽しみました。次第に日が落ちていき、変わってゆく景色がとても綺麗でした。



(19:00)



(19:30)



ホテルに戻ったあとはサプライズで誕生日の韓国人メンバーのお祝いをし、最終日の発表に向けて少しグループワークを進めて、2日目を終わりました。

3日目

6. ヨンナムドン探訪

ホテルで朝食をとった後、ヨンナムドンを探訪しました。グループ別で昼食を食べた後、韓国のプリクラを撮り、カフェに行ったほか、お土産も買いました。

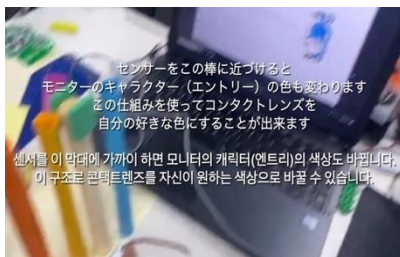
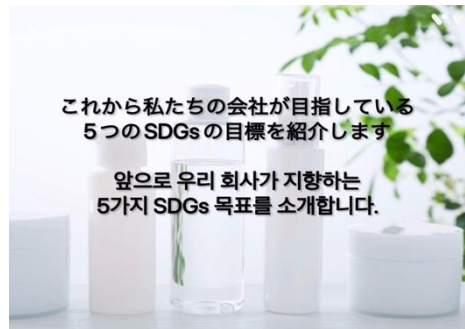


夕食は、ダイニング形式で韓国の有名なチキンやアイスクリームなどをデリバリーし、皆で楽しく話しながら食べました。ここで、3日間を通して「ベスト〇〇」だった人をスタッフの方が選んで景品をプレゼントしてくれました。



7. 模擬ピッチ

各チームが準備してきたものを発表しました。私のチームは、SDGsを参考にして、環境にやさしい化粧水開発と、自分で自由にデザインできるカラーコンタクト開発について発表しました。チームの中でそれぞれ役割分担を行い、私はその広告動画編集を担当しました。実際にプログラミングや工作によって商品をつくる製作チームに、製品作りや素材の動画を送ってもらい、それを使って動画を編集しました。編集チームは一人だったので大変でしたが、困ったときは韓国人メンバーのお兄さんが丁寧にアドバイスをくれたりしたので、完成させることが出来ました。発表チームも上手く、私たちのバトンを受け継いで完璧な発表をしてくれました。発表終了後に、3つの部門でどのグループの発表が良かったかスタッフの方が選び、それぞれのグループがひとつずつ賞をもらいました。



4 日目

ホテルで朝食を摂り、集合写真を撮って韓国人メンバーとお別れをしました。最後に、チームの仲間だけでなくお世話になった友達に対して、寄せ書きを書き合いました。書きながらひとりひとりの思い出が思い起こされ、キャンプが終わってしまうことを実感しました。この小さな思い出たちがメッセージとして残ることで、見返す度に当時のことを鮮明に思い出します。最後に、ホテルの前で全員での写真撮影をしました(写真 16)。

8. 帰国

非常に濃い4日間で、睡眠もあまりとれていなかったため、皆かなり疲れていましたが、韓国でのたくさんエピソードを共有し合い、余韻に浸って盛り上がっていました。最後に、羽田空港に到着し、記念撮影を行いました(写真 17)。



(写真 16)



(写真 17)

考察・感想・展望

当キャンプの感想を一言で表すとすれば、「最高」だったという言葉以外思い当たりません。これは参加したメンバー全員に共通することでしょう。それほど充実していた分苦勞も多く、慣れないグループワークに加え、多言語を用いたコミュニケーションをベースとしていたため、思うようにいかない場面もありました。けれど私はそこで翻訳機に頼って完璧に伝えようとするのではなく、あえて不器用に、不完全でもいいから、たとえ言葉が通じなくとも相手に自分の意思を伝えようとする気持ち、意思疎通を図ろうとする熱意、同じ目線でリスペクトと思いやりを持って接することが大切だと考えました。そのような姿勢こそが異国語話者とコミュニケーションを取る上で必要不可欠であり、私たちに求められていることなのではないかと感じました。また、そうすることで相手もより自分のことを理解しようとしてくれるので、当キャンプの目的である相互理解とは何かを学ぶことが出来たような気がします。今後の生活において、当キャンプで学んだことをしっかりと胸に刻んで次のチャンスに繋げていきたいです。

日常においても、バス移動の際は毎回席を変えてなるべく違う人と隣に座るように意識したり、食事のとき韓国人メンバーと一緒に食べるようにしたりと失敗を恐れず、積極的に会話をするよう心がけていました。ひとりひとりと話していると、やはりそれぞれに個性があり、同じ質問をしても価値観の違いや居住地域の違いなどの影響で返答に大きな差があり、興味深いものでした。日本も地方によって文化や慣習が異なるように、韓国でもその違いは日本と共通していることに気づき、もっと韓国の文化や考え方について知りたいと思いました。今回は高校生のみを対象としていて、若年層については大まかに把握できたので、次は高齢層の方々との交流を踏まえ、若年層と高齢層の対比もしてみたいです。

近年、K-POP の世界進出やコリアンカルチャーが流行する中、逆に韓国の若者が日本の若者のスタイルに憧れ、真似をする傾向があったり、「ハンボノ」と呼ばれるハングゴ(韓国語)とイルボノ(日本語)のハイブリッドの話し方が日韓の若者の間で流行っていたりと、私たち若者から見て日韓関係は少しずつ改善していっているように感じます。韓国の若者も親日派が大多数を占めているように、そういった若者世代の動きが日韓関係に顕著に表れています。これを踏まえ、改めて私たち子どもが国際問題という大きな問題の未来をも変えようということに気付かされます。若者ひとりひとりが未来を変えていく主導員としての自覚を持って、挑戦し続ける姿勢を大切に全力で羽ばたいていけるような環境を全員でつくりあげていくことこそが今求められていることなのではないでしょうか。